

こちらでは、日中は30℃を超えますが、夜中は窓を開けて寝ると寒いです。

仮設住宅へ来てくれるボランティア

3年以上経っても、仮設住宅には、全国からボランティアの人達が来てくれます。園芸をしたり、ダンスや唄を歌ってくれたり、炊き出しをしてくれたりしてくれます。また、ペットボトルに入った花・鎌倉八幡宮の絵馬・手づくりの折り紙の箱・女子中学生からの励ましのレター（ラブレターではない）等が届けられます。私は被災者ではありませんが、もらえる物はもらっています。（すみません）

お好み焼きとうちわ作りのボランティア

7月27日には、京都府職員労働組合連合会から、16人の人達が来てくれました。京都から高速道路で17時間かかったとのこと。前日は仙台で開催された自治体学校に参加して、その足で仮設住宅に来てくれました。マイクロバス2台の運転手は、市バスの運転手です。

お好み焼きを300食作ってくれました（なぜかこ焼きではないのか）。当日は気温は30℃を超える猛暑の中で、大汗をかいての作業でした。また、うちに水彩やクレヨンで各自が絵を描いて、自家製うちわの作り方を教えてくれました。また、中学校の草刈りをしてくれました。

紙芝居と南京玉すだれのボランティア

6月27日～29日には、私の前の職場の人達が、6人で気仙沼市に来てくれました。大島の民宿で2泊して、2日目は陸前高田や大槌町を見て、遠野にも足を伸ばしました。

そして、3日目に仮設住宅で、飯泉さん夫妻がボランティアをしてくれました。私は各戸にボランティアのお知らせのチラシを配っただけですが、20人が集まってくれました。子ども達も来てくれました。

オオカミが1本の丸太橋の上で、意地悪をする紙芝居や、動物当てクイズをしてくれました。こちらでは、仙台にしか動物園がありませんが、子ども達は動物の名前を良く知っていました（魚の名前は私よりも知っています）。

最後は南京玉すだれをして、喝采を浴びました。また、今回こちらに来れない方が、布製の手提げ袋を15個作ってくれて、参加した人達に配布して、喜ばれました。

後で私は、自分にはプロデューサーの才能があるのではないかと思いました。防潮堤の仕事よりも、プロデューサーの方が楽しいです！？

気仙沼へ来るには、ボランティアをしなければならないと言うことはありません。“無芸大食”の貴方、大歓迎です。

【お好み焼きのボランティア大汗をかいての作業です】



【紙芝居と南京玉すだれのボランティア被災者の方達も楽しみました】

